

◆奨励賞◆

なぜ生きているのか

城島小学校 六年

土井 育音

ぼくは、いつもなぜ自分が生きているのかどうして存在しているのかが気になります。自分は、なにかをするためにうまれてきたのか。それは、わからないけど一つだけわかることがあります。それは、生きていて楽しいということ。家族や友達などがいて幸せです。だけどそんなぼくは、何をしたらいいのでしょうか。勉強したり遊んだり仕事をしたり、人は、色々なことをします。だけどなにをしても自分がなぜ生きているのかは、わかりません。だけど満足している人もいます。人は、自分が満足するまで生きつづけるのでしょうか。自分が満足するために戦ったり、ぬすみをしたり悪いことをする人もいます。それは、ただしいのでしょうか。自分が満足するために人をきずつけてもいいのでしょうか。自分がただしいと思う。そしてみたされる。それがぼくたちの満足というもの。人が満足する。そしてまた不満になる。そうすると、またその間を満たそうとする。そうすると一人一人が満足するとほかの人にめいわくがかかることもある。そうしたら、その人もその間を満たそうとする。そのくり返し、それがぼくたちの人生なのかもしれません。一人満足してまたもう一人、それが生きていくことに関係しているのでしょうか。喜び、かなしみ、満足、不満、色々と人のかん情があります。人が生きているとかん情が出てきます。それも一つのカギなのかもしれません。自分が生きているなぞ、人とは、な

んなのでしょうか。まだわかりません。自分が生きている訳、自分でもわかりません。みなさんは、日々何を考えていますか。こんどは、自分がなぜ生きているのか考えてみてください。